

---

# 遊戯王 Speedcross

slipstream

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王 Speedcross

### 【Nコード】

N9264Z

### 【作者名】

slipstream

### 【あらすじ】

チーム5d、sと未来人との戦いから数十年後、ライディングデュエルは大きな進化を遂げた。Dホイールから実車型のDRW（Duel Racing Wheel 通称ドロウ）に乗り込み、時速300キロオーバーのデュエルの領域に迫る！

## プロローグ（前書き）

文法の使い方など不慣れなところもありますがご了承ください。  
序盤は遊戯王キャラとオリキャラですが話が進むとクロスオーバー  
になりますのでそこら辺もご了承ください。それではよろしく願  
いします。

## ブローグ

俺の名前は空見 遊英。<sup>ゆうえい</sup> ちょうど20歳。

デュエルが好きだった親父が名づけた名前で、デュエルなどで英雄になってほしいという願いが込められている。

俺は今、DRWのチューニング(車を改造すること) ここではDRWを改造すること) ショップで働いている。客もそこそ来るから休む暇はない。役に立ててうれしいと思うと心が満たされる。だが、そんなことでは完全に心が満たされるわけではない。デュエルはもちろん、レーシングデュエルをすることが俺の楽しみでもある。

レーシングデュエルは従来のライディングデュエルとは全く違う。ルールは基本的に従来と同じ。スピードワールドXという専用のフィールド魔法発動のもとデュエルを行う。変更点は、スピードカウンターがMAXで12個から15個まで溜まるようになった。スピードカウンターを2個取り除くことで自分モンスター1体の攻撃力を200ポイント上げる(エンドフェイズまで有効)、5個で自分の手札のスピードスペル(Sp)の枚数×300ポイントのダメージを与える、7個でデッキから1枚ドロ、10個でフィールド上のカードを1枚破壊、15個でデッキから2枚ドロという効果がある。当然、レーシングデュエル中はSpしか使用できない。

これが俺の愛車の黒のR35 GT-R(もともと俺の親父のDRWだが、俺が18歳の誕生日のときに病気にかかり、最期にこのGT-Rを託し、この世を去ってしまった・・・。そのとき俺は絶望したりもした。だが、いつまでも絶望なんてしてはいられない。未来を見ていきたくないとな。それに、天国の親父にも失礼かもな)。スピードメーターなどはなくモニターがある。ドライブモードになればメーターは表示される。デュエルモードでは、ヘルメッ

トに付いているマイクでやりたいことを言つとそれに反応してカードをプレイしてくれる仕組みだ。カードを伏せる場合は、ヘルメットが脳をスキャンし、何をしたいかを識別する。レーシングデュエルの際には中にあるデッキホルダーにデッキを入れ、デッキごとスキャンし、そのカードを使用できるようにする必要がある。エクストラデッキのカードもエクストラデッキホルダーに入れてスキャンすればそれらも使用できる。スタンディングデュエル用のデュエルディスクはトランクに装備されている。ハイブリッド式。

無駄話をしてしまったようだな。それじゃあ、俺のストーリーの始まりだ！レーシングデュエル、アクセラレーション！

「空見、もう今日はあがつていいぞ。」

「はい、店長。失礼します。」

8時半になる。早く家に帰る。母は遠くで働いていて戻ることは少ない。かえつてまずは飯を食べる（調理くらいはしたことある！）。その後風呂に入り、疲れたから寝るかと思いきや、10時ぐらいに外へ出て、DRWに乗り、ハイウェイへ行く。夜のハイウェイは景色がよくて、疲れも取れる。後ろからセキュリティの車両が通る。かかる。

「なんだ、またハイウェイに居たのか。」

モニターに相手の顔が映る。セキュリティの牛尾だ。夜のパトロールのようだ。この人とはよく会う。

「うん、やっぱり夜のハイウェイはきもちいいからな。」

「お前もDRWでのドライブが好きなんだな。遊星みたいだな。」

「それもそうだけど、俺としてはレーシングデュエルが一番好きだ。」

「まあお前の気持ちは分かるが、せいぜい事故を起こさないように気をつけろよ。」

「ああ。」

牛尾との会話を終え、十分に走ったところでハイウェイを降りる。

そんな中、一人の民間人が一人のチンピラに絡まれているのを見かける。

「おい！やられなくては俺様につよいデツキよこせよ！」

「それは・・・できません・・・。」

今すぐにDRWから降りて、チンピラを止めにかかる。

「おい、そこでなにやってんだよ。」

「ああ、誰だあお前？」

「まずはその人を放してやれ。」

「やだね、強いデツキをもらってもないのにはなせるものか！」

「デュエルしろ。俺が勝ったら二度とその人に関わるな。」

「はん、上等だコラ。俺が勝ったら貴様のデツキをいただくからな！」

「いいだろう、ハイウェイに出ろ。」

二人はハイウェイに出た。まさに戦いの火蓋が機つて落とされようとしている。

22:40 ハイウェイ

「スピードワルドX、セットオン！！！」

デュエルモード オン

「レーシングデュエル、アクセラレーション！！！」

続

## ブログ（後書き）

いかがでしたでしょうか。変なところも最初はありますがお許しを。不定期更新ですがよろしく願います。

## A c t 1 レーシングデュエル（前書き）

ここからオリキャラとオリカが登場します。LP表示など間違えていたらごめんなさい。またSPCは5dsと同じ増え方です。また、レーシングデュエルなのでDホイーラーからレーシングデュエリストという呼び方になります。



## Act 1 レーシングデュエル

「ニューステージ篇」 #1 スタート

「レーシングデュエル、アクセラレーション！」

二人はデッキをDRWに内蔵されているデッキホルダーにセットしスキャンした。

俺のDRWのモニターにはデュエリスト情報が写っていた。名前はマイケルだ。先行後攻の決め方は先に第1コーナーを抜けた者が先行だ。2台のDRWはドリフトでコーナーに差し掛かる。遊英が先に第1コーナーを抜けた。遊英が先行だ。

「俺のターン！」

遊英 SPC1 手札6

「俺はダーク・エルフ・ブレイダーを召喚！」

ダーク・エルフ・ブレイダー（オリジナル）

ATK1400 DEF1200 闇 戦士 星4 効果

このカードが召喚に成功した時、

デッキからレベル4以下の闇属性モンスター1体をゲームから除外できる。次の自分のスタンバイフェイズ時にこの効果で除外したカードを手札に加える。

「俺はダーク・グレファアをゲームから除外する。カードを2枚セツトし、ターンエンド。」手札3

次はマイケルのターンだ。「俺様のターン。」

マイケル S P C 2 手札 6

「俺様はスモーク・ドラゴンを召喚！」

スモーク・ドラゴン（オリジナル）

ATK 1500 DEF 1300 闇 ドラゴン 星4 効果

このカードが破壊され墓地に送られた時、デッキから「スモーク・ドラゴン」1体を守備表示で特殊召喚できる。

「バトル！スモーク・ドラゴンでダーク・エルフ・ブレイダーを攻撃！スモークブレス！」

「くっ」

遊英 LP 3900

「カードを1枚セットしてターンエンド。」手札 4 セット魔・罠 1枚

「お前のエンドフェイズに罠発動、闇の門！」 セット魔・罠 2枚

闇の門（オリジナル）

通常罠

自分フィールド上にモンスターが存在しない時、1000ライフポイントを払って発動する。デッキからレベル4以下の闇属性モンスターを特殊召喚する。

遊英 LP 2900

「俺はダブルコストンを守備表示で特殊召喚する。」

ダブルコストン DEF 1650 闇 アンデット 効果 闇属性  
モンスターのアドバンス召喚時に2体分のリリースとして扱える。

「そして俺のターン。」

遊英 S P C 3 手札 4 枚

「俺はダブルコストンをリリース。こいつは闇属性のアドバンス召喚のためにリリースするならこいつ1体で2体分として扱うことができる！墮天使ゼラートをアドバンス召喚！」

マイケルはにやけた。おそろく畏だろう。

「へっ、かかったな！トラップ発動、奈落の落とし穴！攻撃力1500以下の各種召喚時にそのモンスターをゲームから除外する！」

「（すまない、ゼラート。）俺はカードを1枚セットしてターンエンド！」手札2枚

「俺様のターン！ふん、さあ、いくぞ！俺様はスモーク・ドラゴンをリリース！デスストーム・ドラゴン！」手札5 4枚 S P C 4

デスストーム・ドラゴン（オリジナル）

ATK3000 DEF1800 闇 ドラゴン 星7

このカードはリリース1体でアドバンス召喚することが出来る。この方法で召喚した場合、このターンのエンドフェイズ時に破壊される。1ターンに1度、相手の「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つモンスター効果の発動を無効にし、破壊することが出来る。

「デスストーム・ドラゴンでプレイヤーにダイレクトアタック！」

「畏発動、聖なるバリア ミラーフォース！ 相手の攻撃宣言時に相手攻撃表示モンスターをぜんめつさせるぜ！」

またマイケルはにやけた。こいつを防ぐ罠があるというのか。

「馬鹿だなあ、カウンター罠発動。防御禁止令！」

防御禁止令（オリジナル）

カウンター罠

手札を1枚捨てる。攻撃宣言時に発動した魔法・罠・モンスター効果の発動を無効にし、破壊する。

マイケル 手札3枚

「……………」

遊英 LP100

「どうしたあ、最初はえらそうにしておいてたいしたことねえなあ。って何でだ！なぜライフが100残っているんだあ！」

「俺は罠を発動していた。神の奇跡！」

神の奇跡（オリジナル）

通常罠

相手モンスター1体の直接攻撃によってライフがゼロになる場合、ライフポイントは100残る。

「ちっ、俺様はこれでターンエンドだ。エンドフェイズにデスストームは破壊される……。」

遊泳はピンチに陥ってしまった。次のドローですべてが決まる。

「（デッキよ、カードよ、俺はお前たちを信じてる。俺の心に応えてくれ！）俺のターン！」

手札3枚 SPC5

「（ちつ、まだ分らないか。だがこのカードに賭けるしかない。）俺はスピードスペル、エンジェル・バトンを発動！」

Sp エンジェル・バトン

魔法（スピードスペル）

スピードカウンターが2以上ある時、デッキからカードを2枚ドロ―し、手札を1枚墓地に送る。

「エンジェル・バトンの効果で2枚ドロ―！」手札5枚

果たして望みのカードはくるのだろうか。

「（来たか！ありがとよ！）俺はエンジェル・バトンの効果でキッズデビルを墓地に送る。」手札4枚

キッズデビル（オリジナル）

ATK500 DEF500 闇 悪魔 星3 効果

このカードが墓地に存在する場合、このカードをゲームから除外すること、デッキから「キッズデビル」1体を特殊召喚する。「キッズデビル」の効果は1ターンに1度しか使用できず、「キッズデビル」の効果によって特殊召喚されたこのカードがシンクロ素材のために墓地に送られる、またはエクシーズ素材から取り除かれる場合、ゲームから除外される。

「俺はキッズデビルを除外し、デッキのキッズデビルを特殊召喚する！」

「そんな雑魚を出して何が出来るんだあ、坊やあ。」

「お前は雑魚なカードがないことをしらないのか？なら見せてやるよ。スピードスペル スピード・ランクアップをキッズデビルに装備！」

Sp スピード・ランクアップ

スピードスペル

スピードカウンターが3以上ある時、このカードはモンスター1体の装備カードとなり、装備モンスターのレベルを3上げる。 キツズデビル Lv3 6

「俺はまだ召喚をしていない。ゾンビキャリアを召喚！」手札3枚

ゾンビキャリア

ATK400 DEF200 闇 アンデット 星2 チューナー

このカードは手札のカード1枚をデッキの一番上に戻し、墓地から特殊召喚できる。そうした場合、フィールドから離れるとき、ゲームから除外される。

「レベル6のキッズデビルにレベル2のゾンビキャリアをチューニング！希望の光が集まりしとき、まばゆい光が勝利の闇へと変える。シンクロ召喚！いでよ、ダークエンド・ドラゴン！」

ダークエンド・ドラゴン

ATK2600 DEF2100 闇 ドラゴン 星8 シンクロ・

効果

闇属性チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、このカードの攻撃力を500下げることで相手のモンスター1対を選択して墓地に送ることが出来る。

「さらにスピードスペル、ソニック・バースト発動！ダークエンド・

ドラゴンに使用する！」

Sp ソニック・バースト

スピードスペル

スピードカウンターが5以上あるとき、手札を全て捨ててスピード  
カウンターを全て取り除いて発動する。モンスター1体の攻撃力は  
1500ポイントアップする。 ATK 2600 4100

「そ、そんなあ。攻撃力が一気に4100に上昇しやがっただとお  
！？」

マイケルは遊英の見事なコンボに驚きを隠せないようだ。

「終わりだ！ダークエンドドラゴンでダイレクトアタック！ダーク  
フォッグ！」

「ぐああああっ！」マイケルLP0

決着はついた。2台は停車し、DRWを降りた。そこでマイケル  
は疑問を抱いた。

「なぜだあ、この強いデッキばかりを盗んで合体させて作った俺の  
デッキがなぜこんな野郎に……。」

そして、遊英は答える。

「ただ強いカードだけでは勝てやしない。というよりもカードは持  
ち主にしか応えてくれない。カードを盗んで最強になろうとする奴  
はレーシングデュエリストなんかじゃない！」

そう言い残してこの場を去るのだった。

翌日 某所

「あなたはこの間の。昨日はありがとうございます。あの人捕まっ  
たらしいですよ。」

「礼には及ばない。もう奴はお前に関わることはないだろう。カードを盗んで強くなろうとする奴はレーシングデュエリストなんかじゃないときっぱり言ってやったぜ。」

「本当にありがとうございます。」

「じゃ、俺は行くからな。またな。」

スタンディングデュエルにしろレーシングデュエルにしろ、

自分のカードを信じて戦うのはデュエリストの使命だ。

あきらめたらそこで終わりなんだ。

人のカードを盗んで強くなろうとするのは決して無理だろう。カードは持ち主の魂にしか応えてくれないのだから。

続



## A c t 1 レーシングデュエル（後書き）

まだ書き始めたばかりなので不慣れなところがあります。どうかお許しを。では、次話もよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9264z/>

---

遊戯王 Speedcross

2011年12月31日21時45分発行